

夕子

○おしやれとは痩せ我慢なり春浅し  
クラシック流るる茶房日脚伸ぶ  
夜までは待てぬ晩酌日脚伸ぶ



農子

○風花や黄昏てゆくこの身にも  
春よ来い山の媪は背中で呼ぶ  
慰めの言葉も尽きて黄水仙

○初音してマラソンの子に声つなぎ  
早春の町のイベン軽トラ市  
玉手箱種芋の芽はとぐる巻き

郁代

志津子

○勤め上げ貸農園の春田打つ  
公園の鳩に雀に日脚伸ぶ  
小石川養生所跡春浅し

早春の風の舐め行く寝惚け顔  
日脚伸ぶゆつくり夕餉の用意する  
水温む寄り来る鴨の波紋かな

初江

○春光に百獣の王眼を閉じて  
校庭にノック軽やか日脚伸ぶ  
恋の猫少し逃げては振り返り

郁子

一枝

○ホップステップジャンプ春の雀かな  
下萌や赤子はすでに土踏まず  
一文橋灯を待つ日永かな

○雛飾る昭和平成そして今日  
日脚伸ぶ学童保育子は二人  
早春歌ユニークな人マラカスで

富江

○早春の雨やはらかに畑の藁  
早春や稚魚追ふ子らの声弾け  
日脚伸ぶ部屋のほこりの目立つかな

酔花

幸美

つかまんと手のひら淡し牡丹雪  
道端の草つむ手にも春の息  
青空に雪割桜誇らしげ

○素ぴんの少女のうなじ日脚伸ぶ  
春浅し半分青い蒙古斑  
素足の少年早春の扉を開く

ゆの

○沈丁花いつもの記憶にたどりつく  
老猫の寝言を耳に桃源郷  
マフラーを解いた風と日なたぼっこ

えり

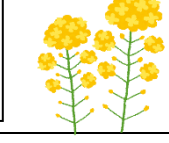
富子

日脚伸ぶ本のページが最後まで  
早春にペーパーホルダーうすみどり  
はるばると河津桜を室戸まで

○ふらここの順番待つてゐる子かな  
その辺りちよっと歩こか日脚伸ぶ  
早春といふ文字さがす電子辞書

美貴

早春の里の蕾がりんと見ゆ  
早春や赤き南の星ひとつ  
早春やむこうから来る鳥百羽



味元 昭次 作品

日脚伸ぶことも告げたり認知症  
錠剤を乗せ浅春のたなごころ  
浅春の水音死者の声とせむ

○早春のオカリナ遺影傾きし  
日脚伸び犯人さがす文庫本  
コンサートの隣空席春の雨

